



2026年5月22日

各 位

SEホールディングス・アンド・  
インキュベーションズ株式会社  
代表取締役社長 速水 浩二  
(スタンダード・コード9478)  
問い合わせ先  
執行役員経営企画部部长 松村 真一  
TEL 03-5362-3700

## 【翔泳社】MarkeZine 開設 20 周年及び ECzine・SalesZine との統合のお知らせ

当社グループ子会社である株式会社翔泳社（東京都新宿区舟町5 代表取締役 臼井かおる）が運営するビジネスメディア「MarkeZine（マーケジン）」は、本日開設 20 周年を迎えます。

この節目を機に、同社が運営する「SalesZine（セールスジン）」および「ECzine（イーシージン）※」を MarkeZine ドメインへと統合し、一体的なビジネスメディアプラットフォームとして 2026 年 6 月中旬以降より新体制での運営を開始いたします。詳細につきましては、添付しました同社プレスリリースをご参照ください。※統合後の新名称は CommerceZine（コマースジン）

当社グループでは、今後もオンラインメディアやイベントなどを通じて、IT 市場、オンライン市場の発展や企業の DX・AX 化に寄与していきます。

### ◆本件に対するお問い合わせ

株式会社翔泳社

広報担当：石川【 cr@shoeisha.co.jp 】

TEL：080-6746-4289／03-6738-1984

### ◆IR に関するお問い合わせ

SE ホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社

経営企画部経営企画課

TEL：03-5362-3700

お問い合わせ - SE Holdings and Incubations Group (sehi.co.jp)

以 上

MarkeZine、20周年を機に「ECzine」「SalesZine」と統合～マーケティング・コマース・セールスを横断する「統合型ビジネスメディアプラットフォーム」へ～



株式会社翔泳社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：臼井かおる）が運営するビジネスメディア「MarkeZine（マーケジン）」は、2026年5月22日に開設20周年を迎えます。

この節目を機に、同社が運営する「SalesZine（セールスジン）」および「ECzine（イーシージン）」を MarkeZine ドメインへと統合し、一体的なビジネスメディアプラットフォームとして2026年6月中旬以降より新体制での運営を開始いたします。

なお、統合にあわせて「ECzine」は「CommerceZine（コマースジン）」へとリブランディングを行い、ECのみならずコマース領域全体をカバーする専門メディアとして展開してまいります。

#### ● ECzine は CommerceZine へリニューアル



【本件に関するお問い合わせ先】（献本や取材など、ご相談いただければ幸いです）

株式会社翔泳社 広報担当：石川【[cr@shoeisha.co.jp](mailto:cr@shoeisha.co.jp)】

〒160-0006 東京都新宿区舟町5 4 F

## ●SalesZine は MarkeZine ブランドに合わせ、ロゴを変更



## ●統合後のサイトイメージ（仮）



## ■統合の背景：20年で変わったこと、変わらないこと

MarkeZine が開設された 2006 年は、まさにデジタル広告の黎明期でした。以来約 20 年、デジタル広告の市場規模は広告費の過半数を占めるほどに成長しています（参考：電通『2025 年 日本の広告費』）。かつて日本では「マーケティング＝広告」と捉えられがちでしたが、市場拡大に伴いデジタルが中核になるにつれ、顧客理解に基づき事業全体を設計する本来のマーケティングが浸透していきました。MarkeZine はこの歩みに伴走し、広告・プロモーションから経営戦略、ブランディング、CX、データ活用、営業・コマース連携へとコンテンツ領域を拡張。いまやマーケティングは経営戦略そのものへと位置づけが変わりつつあります。

その間、翔泳社ではメディアの専門分化も進めてきました。ネット通販の急拡大を機に 2013 年には「ECzine」を立ち上げ、OMO や D2C といった EC トレンドを追求。2019 年には営業組織の変革を伝える「SalesZine」をローンチし、コロナ禍におけるリモートワークやテクノロジー活用をリアルタイムで発信してきました。

そして現在、AI の急速な普及により、各領域で磨かれてきた専門性は AI に代替されながら互いに混ざり合い、再定義されています。一方で、どのような時代でも「顧客を理解し、ビジネスを前に進める力」の重要性は変わりません。

マーケティングが経営戦略そのものとなった今、マーケティング・コマース・営業という3領域を横断し、次世代の事業リーダーや経営層に統合的な知見を届けるプラットフォームが必要である——。私たちはそう判断し、今回のメディア統合に至りました。

## ■統合のポイント

- サイト統合：CommerceZine・SalesZineはMarkeZine内に集約。各専門メディアとしての独立性を維持しながら、MarkeZineのプラットフォームの中で運営を行います。また、両メディアの過去記事はすべてMarkeZine内へ引き継がれます。
- メールマガジン：各領域の情報収集がしやすいよう、引き続き領域別のメルマガを配信します。
- 検索利便性の向上：統合により、3領域のコンテンツをまとめて検索・閲覧いただけるようになります。検索機能のアップデートも予定しております。

## ■編集体制変更

また、統合にあたって組織体制の変更も行います。MarkeZine編集長は、現在の安成蓉子から宮田華江に変更いたします。

### ●宮田華江プロフィール

1992年東京生まれ、福岡育ち。立教大学社会学部メディア社会学科卒業。2016年翔泳社に入社、MarkeZine・ECzineなどの広告営業を担当。2019年1月に営業組織をテクノロジーで支援するウェブマガジン「SalesZine」を立ち上げる。2020年4月、SalesZine編集長就任。ビジネスメディアの統合を担い、2026年4月、MarkeZine編集長に就任。

### ●新編集体制

- ビジネス編集統括 安成 蓉子 (Biz/Zine 編集長 兼任)
- MarkeZine 編集長 宮田 華江 (SalesZine 編集長 兼任)
- CommerceZine 編集長 道上 飛翔

編集部員も3領域を横断し、シナジーの強いコンテンツ発信を進めてまいります。

## ■20周年特集・大型イベントのご案内

6月下旬からMarkeZineにて掲載開始予定の20周年特集では、各界のキーパーソンとともに、20周年を振り返り、マーケティング・コマース・営業の未来を多角的に特集します。

また、2026年度は統合プラットフォームとしての発信力を活かし、次の大型イベントを予定しています。

- 2026年7月22日、23日 BtoB Synergy FORUM 2026 (MarkeZine × SalesZine)
- 2026年9月8日、9日 MarkeZine Day 2026 Autumn

---

【本件に関するお問い合わせ先】 (献本や取材など、ご相談いただければ幸いです)

株式会社翔泳社 広報担当：石川【[cr@shoeisha.co.jp](mailto:cr@shoeisha.co.jp)】

〒160-0006 東京都新宿区舟町5 4F

- 2026年12月3日 Retail&Commerce Standard 2026 (MarkeZine×CommerceZine)
- 2027年3月 MarkeZine Day 2027 Spring

● イベント協賛のお問い合わせはこちら

<https://www.shoeisha.co.jp/ad/markezine>

## ■ MarkeZine 編集長 宮田華江よりコメント



このたび MarkeZine 第5代編集長に就任しました、宮田華江です。

2016年に翔泳社へ入社して以来、MarkeZineとECzineの広告営業を経て、2019年にSalesZineを立ち上げました。マーケティング、コマース、営業——今回統合する3つの領域すべてに、それぞれ異なるかたちで関わってきたこととなります。だからこそ申し上げられるのは、この3領域はもう、別々に語れる時代ではないということです。

SalesZineを立ち上げた2019年、「営業がテクノロジーで変わる」という確信のもとに走り出しました。コロナ禍を経て、その変化は誰の目にも明らかになりました。いま、AIの急速な実装によって、マーケティング・コマース・営業のいずれの現場でも仕事の進め方そのものが変わりつつあります。一方で、顧客を理解し、ビジネスを前に進める力の重要性は変わりません。

新生 MarkeZineは、CommerceZine、SalesZineという強い専門メディアを擁しながら、3領域を横断して読者のみなさまの仕事に資する情報をお届けする羅針盤となることを目指します。

おもしろい時代です。一緒に進んでいきましょう。

## ■ビジネス編集統括 安成 蓉子よりコメント



『MarkeZine』はこのたび 20 周年を迎えることができました。長きにわたりご愛読くださった読者の皆様、知見を惜しみなく分かち合ってくださいました有識者・実務家の皆様、広告主・パートナー企業の皆様に、心より御礼申し上げます。

私が編集長を拝命した 2019 年以降の 7 年間は、コロナ禍によるデジタルシフトの加速、生成 AI の実装などを経て、日本においてもマーケティングがいよいよ「経営マター」へと進化した時代でした。MarkeZine の読者層も、現場のマーケターに加え、マーケティングの力で企業・事業をグロースさせる経営層・事業責任者の皆様へと大きく広がっています。

その歩みの背景には、専門領域に深く根を張り、オリジナリティあふれる視点で発信を続ける編集部員一人ひとりの存在があります。そして MarkeZine は、事業グロースを担うキーパーソンが立場や業種を越えて集うコミュニティであり、場であり続けてきました。これこそが私たち MarkeZine が運営を続けられてきた源泉だと確信しています。

20 周年を節目に、MarkeZine は SalesZine、CommerceZine と一体になります。この度のメディア統合は、MarkeZine の専門性と編集力を、より広い読者層と、より深い経営アジェンダへと届ける大きな飛躍の機会になるはずです。新体制の MarkeZine に、引き続きご期待ください。

### ●MarkeZine について

2006 年 5 月 22 日に開設。マーケティング領域の専門メディアとして、デジタル広告・コンテンツマーケティング・データ活用など幅広いテーマを扱う。メルマガ会員数 16 万人。

URL : <https://markezine.jp/>